

ダムが必要か、みんなで考えよう！

WE LOVE
KOUBARU!

石木ダム問題を 考える栄町・下百 津地区学習会を開 きます！



「馬鹿げたダム計画のために立ち退きたくない」「ダム問題はタブー視されてきた」「何でこんな学習会がこれまで開かれなかったのか。ダム問題を町民目線で考えたい」など様々な声が聞けた1月21日の石木ダム問題を考える中組地区学習会。約50名の人に参加し、熱い意見交換が行われました。今度は栄町・下百津地区の方が対象です。これまで聞けなかった質問、長崎県など行政に対する意見などを出し合って、みんなで気軽に話し合ひましょう。ダムに賛成の人も反対の人もご参加ください！

石木ダム問題を考える栄町・下百津地区学習会

日時：2017年2月25日（土）18:30 開始

場所：川棚町中央公民館 講習室

(川棚町中組郷 1506、TEL:0956-82-2064)

入場無料

内容： ①石木ダム事業の概要と問題点
②佐世保市の水は不足しているのか
③ダムが出来たらどうなるのか—熊本の事例から
④みんなで語ろう話そう—石木ダム問題

主催：石木ダム建設に反対する川棚町民の会

連絡・問合せ先：090-4519-2528 炭谷

*この学習会は栄町・下百津地区学習会としていますが、石木ダム問題に関心がある人なら、どなたでも参加できます。

石木ダムの問題点

石木ダム事業は以下の問題点を抱えています。ダムを造る必要はありません。

1. ダムを造る理由は失われている！

① 利水面：佐世保市の水は足りている

石木ダムの目的の一つは佐世保市への水の供給ですが、誤った水需要予測に基づいています。近年の佐世保市の水需要は減少の一途を辿っており、ダムの水を必要とはしていません。

② 治水面：石木ダムは川棚川の治水対策として不要

もう一つの目的である川棚川での洪水防止ですが、河川改修が進んだことにより、城山公園下の改修が済めば過去最大の洪水が来ても溢れずに流せます。これは中村法道長崎県知事も認めています（2014年7月11日、川原公民館）。下流の内水氾濫はダムでも防ぐことは出来ません。

2. ダムを造るとどうなるのか

① かえって洪水の危険が増す

想定以上の大雨でダム湖の水が満水状態になると、洪水調節が出来なくなり、ダムは緊急放流します。そのためダムの下流では大雨による水とダム放流の水が一気に押し寄せ、水位が一気に上昇し洪水が発生します。ダムを造ると下流はかえって危険です。

② 豊かな自然環境・地域社会が失われる

ホテル祭りで有名な川原地区の豊かな自然環境とその自然と結びついた13世帯の人々の生活もダム建設によって水没し、失われてしまいます。この失われるものの価値はお金に換えることは出来ません。



③ 川棚川・大村湾への悪影響

川の水がダムによってせき止められることで様々な悪影響が発生します。ダム湖ではヘドロや異臭が発生します。またアオコの発生も予想されます。ダム湖の水が下流に流れて、川棚川・大村湾の水質は悪化します。また土砂や栄養分の供給もストップし、漁業への悪影響も考えられます。

④ 土砂が溜まってダムは使えなくなる

ダム湖に流入・堆積する土砂により、ダムはいずれ、その機能を果たさなくなります。

⑤ 総事業費 285 億円で足りるのか

石木ダム事業の現在の総事業費は 285 億円。熊本県で中止になった川辺川ダムの事業費は当初 350 億円でしたが、最終的には 2650 億円になりました。石木ダム事業も今後、資材費の高騰などで建設費は大幅に増えることが予想されます。

⑥ ダムは人権侵害、民主主義と逆行する

そのような目的が失われ、問題だらけの石木ダム建設を、地域住民への十分な説明や水没予定地・川原地区の住民の合意なしに、13 世帯約 60 名の家や田畑を強制収用までして長崎県は進めようとしています。これは人権侵害以外の何物でもなく、民主主義に逆行するものです。

今からでも遅くはありません。私たちが本気になればダムを止められます。

2016年11月 石木ダム問題を考える川棚町民の会